

大学図書館の現状と課題

平成30年度大学図書館職員短期研修（京都大学会場）

平成30年10月2日 京都大学附属図書館 米澤 誠

本日の内容

1. 大学図書館の目的と機能

2. 現状：大学図書館をめぐる変化

- 各種統計に見る変化
- 国の施策に見る動向

3. 課題：国立大学図書館協会ビジョン2020から

- 重点領域1：知の共有
- 重点領域2：知の創出
- 重点領域3：新しい人材

大学図書館の目的と機能

大学図書館が有する資料・学術情報、施設・設備（ファシリティ）、職員というリソースを使い、大学の目的・機能の実現を支援する組織

(1) 教育支援

- －教育・学習用資料の整備
- －学習支援のための教育（情報リテラシー教育）
- －多様な学習ニーズに応えられる施設・設備（ファシリティ）提供

(2) 研究支援

- －研究用資料の持続的・安定的整備（近年は特に電子ジャーナル、DB等）
- －研究成果の生産・発信支援（機関リポジトリ、オープンアクセス等）

(3) 社会貢献

- －所蔵資料展示、市民公開
- －地域連携

国の施策に見る動向(1)

■ 平23.8 第4期科学技術基本計画(平23～27) 閣議決定

- 機関リポジトリの構築推進、オープンアクセス推進

機関リポジトリと
オープンアクセスの
社会的認知

■ 平24.7 学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について 科学技術・学術審議会 学術情報基盤作業部会

- 科研費等競争的資金による研究成果のオープンアクセス化への対応
- 機関リポジトリの活用による情報発信機能の強化について

■ 平25.8 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ) 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

- 教育振興基本計画等への対応
- コンテンツ、学習空間、人的支援

アクティブラーニングと
ラーニングコモンズの
社会的認知

■ 平26.7 教育研究の革新的な機能強化とイノベーション創出のための学術情報 基盤の整備についてークラウド時代の学術情報ネットワークの在り方ー(審議 まとめ) 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

- アカデミッククラウド、次期SINET

国の施策に見る動向(2)

オープンアクセスから
オープンサイエンス
(研究データ)へ

- 平28.1 第5期科学技術基本計画(平28～32)に向けた検討
 - 内閣府の総合科学技術・イノベーション会議
 - 文部科学省では科学技術・学術審議会の総合政策特別委員会等
 - オープンアクセス、オープンサイエンス、機関リポジトリ、研究データ

- 平28.2「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」
 - 文部科学省科学技術・学術審議会のもとの学術情報委員会
 - 大学図書館への期待:機関リポジトリの経験を活用。人材育成。
 - 機関リポジトリ等を通じたオープンアクセスの取組を一層促進。
 - データキュレーター等を育成するプログラムを開発・実践。
 - データを選び出し、修復し、組み合わせることも含めて分析する。
 - 著作権処理に負担を感じさせずに利活用できる仕組み。

国大図協ビジョンの重点領域1：知の共有

＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

- ▶ 教育研究成果の発信、オープン化と保存 大学間コンソ JPCOAR 国大図協組織 オープンアクセス委
大学で生み出される成果の電子的流通とオープン化を推進、
長期的な保存も
- ▶ 出版された資料の整備と利用 JUSTICE 学術資料整備委
紙媒体の蔵書、電子リソースの適切な整備、利用環境の整備
- ▶ 知識や情報の発見可能性の向上 これから委員会 学術情報システム委
学術情報システム基盤の高度化により、必要な情報がより効率的・
網羅的に発見できる環境を実現

国大図協ビジョンの重点領域2：知の創出

新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

▶ 知を創出する場の拡大・整備・提供

図書館環境高度化委

- ▶ 学習を促す場
- ▶ 研究を支援する場
- ▶ 図書館の外への拡張

▶ 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

学術コミュニティに限らず様々な人々が知を媒介に集い、知の創出・共有を実現する場

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力体制

